

私のすすめるこの1冊

山下 和美 (教職キャリア高度化センター 教授)

『さる先生の「全部やろうはバカやろう」』

坂本 良晶 (著)

去る11月8日、京都新聞朝刊に「小中学校の先生『急募』」という見出しの記事が掲載されました。産休や男性も含む育休、病休等を取得される方の増加に加え、講師希望者の減少が背景にあるのですが、ここ数年、欠員が埋めにくい状況が続く中、とうとう新聞記事になるところまで来ているのかと感じます。実際、学部生や院生で講師ができる人材がいまいかと問い合わせられてこられることも増えました。加配がついているのに、人あてがされないことはしばしば、授業を担当する教員も埋められないままで、子どもの学びやカバーする教職員にしわ寄せが及んでいます。人員を確保するために奔走することも、校長先生の重要な職務となりつつあります。

教師のやりがいに「人を相手にした専門職」「責任のある重要な仕事」「数字に表れない成果が感じられる」「やればやるほど奥が深く、充実感がある」というようなことが挙げられますが、裏を返せば、そのことがストレスにつながっているとも考えられます。おそらく以前からこの状況にはあったのですが、やりがいばかりが強調され、個人の努力や負担に助けられてきたというのが正直なところだと思います。働き方改革が言われる中、このバランスをどうとるのが喫緊の課題となっています。

筆者の坂本先生は現役の小学校教員で、この問題に「エッセンシャル思考」という理論を用いて教育の生産性向上に取り組まれています。多忙な教員は日々多

くの仕事を抱えていますが、その中で「本質的重要度の高い仕事を選び、そこへ時間・エネルギーを集中投下し、最小のエネルギーで最大成果を発揮する最適解を導き出すこと」が重要であるとされ、秀逸な改善策を数多く示されています。その改善策も、単なる時間短縮術ではありません。日々の激務で疲弊する教員にゆとりを与えることで子どもたちに笑顔で対峙し、できた時間で自己研鑽に努めるよう勧められているように、「子どものためにこれをやめましょう」という引き算の理論が底流にあります。実際、その取組からは子どもたちを信頼し、その力を最大限に生かして、支え合う学級を築こうとされている姿が伺えます。

筆者は「我が子が、だっこをせがんだりするような本当の意味での子どもでいる時期はほんの一瞬だから、その貴重な時間を侵食されることに憤りを感じる」と書かれています。私も校長の時、自戒を込めながら、同じようなことを若い先生に何度もお話ししました。ただ、この言葉を下支えする環境はまだまだ整っていません。学校というところは経験主義や前例踏襲が根強く残っていますが、疲れた顔で、心が折れた状態で子どもたちの前に立たないで済むように、若い柔軟な発想で今の課題を解決してください。本書は、これから社会で活躍するみなさんが、使命感を持って働きたいと思えるような気力を与えてくれることと思います。

教育展:報告

第5回教育展「大学の授業 ～理学編～」を開催しました。

附属図書館では、第5回教育展として、令和5年11月10日(金)から12月27日(水)まで「大学の授業～理学編～」を開催しました。

理学科の先生方にご協力いただき、京都学芸大学学芸学部から京都教育大学教育学部へと続いてきた理学科の歩みを、物理学・化学・生物学・地学・理科教育学の5つの分野に分けて、丁寧に解説いただきました。

物理学分野では、教育資料館所蔵のじばらカメラと現代のビデオカメラを並べ、新旧が比較できる展示や、力学台車の実物とそれを使った実験動画を閲覧することができるようになっていました。

化学分野では、染料の合成と染色についての解説パネルと染色布の実物を展示するとともに、理学科で実際に使用されたpHメーターや光度計、漏斗などの装置を間近で見ることができました。

生物学と地学の分野では、来場者が顕微鏡を実際に操作して観察することができ、図書館の展示室がまるで理科の実験室のように感じられました。また、教育資料館が所蔵している京都学芸大学時代の蝶標本や植物の細胞模型、縦1mを超える地層剥ぎ取り標本などをはじめ、附属図書館所蔵の『解体新書』(初版本)もあわせて展示されました。

理科教育分野では、学芸大学時代の卒業論文、教育大学になってからの約20年分の卒業論文発表会の要旨集や今では姿を消したスライドフィルム、研究室オリエンテーション時の資料など、一般には目にする機会の少ない資料が展示され、興味深く見入る来場者の姿が多く見られました。

解説パンフレットには、各分野で現在行われている授業や、歴代の理学科教員による当時の授業について回想録を交えて描かれ、過去から現在にわたる授業や学生の様子を生き生きと想像することができます。

また、藤陵祭にあわせて2件のワークショップ「においを科学する～こだわりの香水づくり～」(講師:村上忠幸名誉教授)と「新しい理科実験! マイクロスケール実験を体験しよう」(講師:芝原寛泰名誉教授)が開催され、参加した親子連れや学校教員などが、講師の説明を聞きながら実験を行いました。

ワークショップは2件合わせて40名の参加があり、展示期間中には約600名の方にご来場いただきました。紙の資料だけではなく、さまざまな実験器具や装置なども展示しながら、大学の理学の授業がどのように行われてきたのかを目にすることができ、大変充実した展示となりました。ご協力いただいた理学科の先生方に厚く御礼申し上げます。



附属図書館開館時間の変更について

附属図書館では、令和6年度授業期の平日の閉館時刻、土曜日の開館時刻を変更し、開館時間の短縮を試行します。変更後の開館時間は以下のとおりです。令和6年4月からの試行実施にむけて、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

		変更前	変更後
授業期	平日	9時～21時	9時～ 20時
	土曜	9時～17時	10時 ～17時
休業期	平日	9時～17時	9時～17時
	土曜	休館	休館



展示案内:報告

さんぼみち-小学校教科内容論
音楽「記譜」課題-

1月24日(水)から2月9日(金)
まで開催しました。



京都教育大学附属学校園
こども美術作品展

2月6日(火)から2月13日(火)
まで開催しました。

🍌【2024年3月31日迄】情報処理学会サイトライセンスサービストライアル中

2024年3月31日(日)まで、下記対象誌の最新号がオンラインで読み放題です。「コンピュータと教育(CE)」や「教育とコンピュータ(TCE)」も対象ですので、この機会にぜひご利用ください。

- 【対象誌】・情報処理学会論文誌(ジャーナル)
- ・情報処理学会論文誌(トランザクション)
- ・情報処理学会研究報告

【Access先】<https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/>

*掲載から2年以上経過した論文はオープンアクセスとなります。

*利用は学内ネットワークからのアクセスに限ります。

📚 卒業・修了予定の方へ

1. 貸出期間の延長

卒業・修了予定の方の貸出は3月8日(金)までとなっています。それ以降も貸出を希望される場合は、所定の手続きを行うことにより、3月25日(月)まで延長できます。カウンターでお尋ねください。

2. 卒業後の図書館利用について

卒業生利用者としてご利用いただけます。利用証の申請書は卒業式(修了式)で配布し、当日から利用証を発行できますので、ご希望の方はお申込みください。なお、卒業後は本学の学生と利用条件が一部異なりますのでご注意ください。

※3月末に卒業・修了しない方で、貸出中の図書の返却期限日が3月8日(金)の場合は、4月18日(木)に変更されます。

図書館への申出は不要です。

🍌 ご退職・ご転出予定の方へ

本学教職員の方の利用証は在籍期間に限り有効です。ご退職・ご転出予定の方は在籍期間中に本をご返却ください。なお、今後も一般利用者として附属図書館をご利用いただけます。ご希望の方は申請してください。

🌸 新着電子BOOKのポスターを展示しています

新規に購入した電子書籍のポスターを、「新着図書コーナー」の横とその向かい側の二カ所で展示しています。各ポスターの下側にあるQRコードは切り離し可能ですので、読みたい本/興味がある本があれば切り取ってお持ち帰りください。

なお、学外から電子書籍を利用する際は「学認でサインイン」を選択し、学内アカウントのID・パスワードを入力してください。



🗨️ ブックハンティング購入展示コーナー

「図書館に置いてほしい」と思う本を、学生自身が選び、一定の条件内で購入する企画ブックハンティング2023(後期)を実施し、展示しています!

【場所】1階渡り廊下

【期間】2月5日～



貸出できます

🌸 春季休業に伴う長期貸出について

学部生:1月27日(土)～4月3日(水)

院生・教職員:1月15日(月)～3月19日(火)

【返却期限日】4月18日(木)



好評開催中! ※本学は参加館です。

◆第11回京都・大学ミュージアム連携 スタンプラリー

2023年9月23日(土・祝)～2024年3月25日(月)まで

◆第27回京都ミュージアムロード スタンプラリー

2024年1月24日(水)～3月17日(日)まで

🍌 児童書コーナー (南館1階)

幼児教育科主催
えほんのもり

今月の絵本カード(学生作)

『だるまちゃんとてんぐちゃん』

作・絵:加古 里子

出版社:福音館書店



※児童書コーナーに
かわいいカードが
飾られていますので、
ぜひ見に来て
ください。

🍌 教育資料館 まなびの森ミュージアム

【3月の開館日時】

4日(月)、11日(月)、18日(月)

14:00～17:00

25日(月) 9:30～12:30

※卒業式

今月の逸品(2・3月)

ぼっぺん

展示場所:附属図書館

教育資料館 まなびの森ミュージアム

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **香川 貴志** (社会科学科 教授)

大学と小学校の連携による授業実践－小学校第5学年「自動車工業」－

香川 貴志・竹村 晴香

京都教育大学紀要 2023, No.143, pp. 1-13
URI:<http://hdl.handle.net/20.500.12176/9818>



小学校社会科は第3学年に始まりますが、身近な地域や県内の学習が多い第4学年までは「社会科嫌い」の児童は稀有です。しかし、学習対象が全国に広がる第5学年になると、児童にとって訪問経験のない地域、親近感をもちにくい工業が学習対象に加わるので「社会科嫌い」が徐々に増えてきます。また、第6学年の一部では国際関係や国際協調に発展していくことへの橋渡しとして、第5学年の工業では原料の輸入や製品の輸出にも学習範囲が拡大します。そのため、第5学年では「社会科嫌い」を少なくする工夫が社会科を教える教員に求められます。

この論文では、香川の指導学生だった竹村からの依頼を受けて、京田辺市立桃園小学校の第5学年で香川が実施した「自動車工業」の授業を紹介しています。自動車工業は日本の貿易にとって重要な製造業なので、各社の教科書で扱われていますが、海外との比較はほとんど盛り込まれていません。そこでドイツのギムナジウム第9/10学年(日本の中3から高1に相当)の地理教科書からビジュアルな部分を教材として精選し、それをクイズ形式に組み立て直して児童と一緒に考えながら授業を進めました。論文には授業で使ったスライドも示しています。

児童が楽しみながら授業に取り組めたことが、授業の最後にも書いてもらった振り返りシートのテキストマイニング結果で良く分かります。大学教員が小中高の教育現場で実践して得たことを大学の授業で活かせれば、教科内容の講義を一層充実させることができるでしょう。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 143号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程

□9:00-20:00 ■9:00-17:00 ■10:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2024年3月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

3/6 館内整理日
3/12 後期入試
2/25 卒業式

2024年4月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

4/8 入学式
4/11 前期授業開始

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

●京都教育大学附属図書館ホームページ
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>
(QRコード →)



京教図書館 News No.282 (2024年3月号)
発行日:2024年3月1日
編集発行:京都教育大学附属図書館
問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION